

古川黎明高等学校における防災課題研究のふりかえりワークショップを行いました (2017/02/14)

テーマ：総合的な学習の時間，スーパーサイエンススクール，防災教育
場所：宮城県古川黎明高等学校（大崎市）

2月14日（火）に、宮城県古川黎明高等学校にて「SS 総合Ⅰエピローグ講演会」が開催され、当研究所の佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）がワークショップ・ファシリテーターをつとめました。同校は、スーパーサイエンススクール（SSH）の指定校の一つです。SSHは、科学技術振興機構（JST）の事業で、高校等の先進的な理数教育、高大（高校―大学）の接続や共同研究を実施するための支援制度です。同校の1年生は、SSHにおけるカリキュラムにおいて、総合的な学習時間のなかで1年間、「課題研究」を実施しました。今回の講演会は、「エピローグ講演会」ということで、1年間の課題研究の総括と次年度の課題研究を検討するために、開かれたものです。例年、一般的な形式で行われていましたが、今年度は1年間の活動をふりかえり、次年度の課題研究の目標をグループワークで検討するワークショップ形式で開催されました。昨年度も同様の形式で行われたので、2年連続での開催となります。

佐藤翔輔助教は、「SS総合Ⅰ課題研究のふりかえり 一次年度へのステップアップ」というタイトルでワークショップを行いました。課題研究をやってみて「よかったこと」「改善してみたいと思ったこと」をカードに書いてもらい、さらに各グループで整理して発表をしてもらいました。自分達のグループや他のグループの発表を受けて、各自で「次年度の課題研究の目標」を立ててもらいました。ワークショップには、全1年生の210名が参加し、体育館に床座りで、和やか・和気あいあいの雰囲気で行われました。



ワークショップの様子(1)(左：佐藤翔輔助教)



会場の様子



ワークショップの様子(2)